

# 津島市都市計画マスタープラン等策定委員会（第10回）議事録

1. 日時 : 令和5年8月3日（木）午前10時00分～午前11時30分
2. 場所 : 津島市役所5階第一委員会室
3. 出席委員 : 9名、オブザーバー 2名
4. 事務局 : 加藤建設産業部長、武田参事  
市川課長、松尾室長、菱田統括主任、志知統括主任、山本主査
5. 議事内容 :
  - (1) 前回委員会からの修正点について
  - (2) 評価指標について
  - (3) 津島市立地適正化計画（素案）について

## 6. 議事概要 :

### (1) 前回委員会からの修正点について

委員 : ・具体的な取組3-②「避難行動要支援者名簿の作成・活用」に加えて個別避難計画の作成も記載すると良い。フェーズフリーの取組として、コミュニティ形成等の平常時と災害時、どちらも機能するよう内容を追加するとよい。

事務局 : ・危機管理課と調整し、記載できる内容、考え方があれば追加を検討する。前回委員会で松本委員長から災害でパトロールに使う自転車を普段使い出来るような取組があれば良いと意見をいただいております、そのようなイメージで検討する。

委員 : ・平常時でも活用できるような防災への取組が記載できるとよい。個別避難計画の作成も取組に記載できるとよい。

委員 : ・3-⑥事業継続計画（BCP）の策定は発災時ではなく、発災前から行っているため、取組のフェーズは再整理すると良い。

事務局 : ・記載の方法は先ほどの話にもあったフェーズフリーの考え方も取り入れ、フェーズの表現方法は再整理する。

委員 : ・4-①緊急輸送道路、河川、水路などの整備についても発災時に効果を発揮するという意味で位置づけがされているかと思うが、整備については平常時より行っていくため、表現の仕方を改めて整理すると良い。

- 委員 : ・盛り土規制法が今年5月に施行され、県では都市計画課が担当している。県、市、市民が協力して取組を進めていく必要があるため、立地適正化計画への記載、位置づけを検討してほしい。低未利用地や田んぼでの盛り土の対応に苦慮している事例も近隣市にあるため対策等の位置づけが必要かと思う。
- 事務局 : ・低未利用地で盛り土等の危険な使い方がされないように県と協力して指導、管理する旨の記載が考えられる。津島市においては主に市街化調整区域での課題となると思われるが、立地適正化計画での表現方法は工夫する必要があるかと思う。
- 委員 : ・防災上の観点でも記載が出来ると良い。市街化調整区域も含めた対策、規制について都市マスでの記載も検討するとよい。
- 委員 : ・取組について復興が一番時間がかかるフェーズであるため、生活再建や地域コミュニティの維持に加え、ボランティアの確保等、具体的な記載ができるとうよい。
- 事務局 : ・具体的な方向性は地域防災計画で記載しているため、防災指針では地域防災計画のトピックのみ記載している。ボランティアの受け入れ体制について、津島市では社会福祉協議会が設置されている総合保健センターが窓口となっている。
- 委員 : ・ボランティア確保の事務局は津島市社会福祉協議会で努めているが、活動が難しくなってきた。ボランティアの受け入れ体制は今後詳細に検討していただきたい。
- 委員 : ・事務局から関係部局に今回出た意見はしっかりと伝えていただきたい。
- 委員 : ・取組について飲料水の確保に加え、防災協力農地の井戸水の活用を見据え、井戸の把握をするとよい。
- 事務局 : ・農地では浅井戸が多いため上水道ではなく、トイレ用水等の中水道として利用することが考えられる。保健所に登録された井戸に関しては、情報を把握している。
- 委員 : ・浸水した家財等のごみ処理に手間や時間が大幅にかかることが九州豪雨災害でも問題になったが、何か対策は考えられるか。
- 事務局 : ・地域防災計画でごみの受け入れ先の指定はあるが、現状、不足していることや地域生活圏と合致していないこと、受け入れ先も浸水する可能性があること等、課題も多いため、今後検討が必要になる。

## (2) 評価指標について

- 委員 : ・評価指標の可住地人口密度の目標値が現状値より低くなっている。将来、中心市街地では死亡する高齢者が増えることも予想され人口密度が減少することは当然と言えるため、自然増減ではなく、社会増を指標とすると良い。アンケートの定住意向について、対象は居住誘導区域、市全域のどちらか。
- 事務局 : ・立地適正化計画の策定の目的である人口集約において、人口の社会増は重要なファクターである。加えて現在住んでいる市民の居住満足度を向上させ、子育て世代の定住促進、人口の自然増も目指す必要があるため、自然増減、社会増減の両方を踏

また人口密度を指標にすることを考えている。定住意向は市全域でのアンケートであるが、学区ごとにも抽出できるようになっている。居住誘導区域に限定した表現をするか、今後検討したい。

委員：・社会増に加えて、子育てがしたい人の割合を増やして、自然減も食い止めるということだと思う。

委員：・死亡者数と出生数を区分して把握する方法も考えられる。

委員：・目標人口密度が下がっているのは、見栄えが悪いため、表現を工夫するとよい。

事務局：・計画書では省略しているが、社人研の人口推計を基に算出した将来人口密度はさらに低い値となっているため、施策により人口減を緩和していく方向性が分かるよう表現を工夫する。また現状、津島市では社会減の状態だが、今後、社会増を目指し居住誘導を進める。

委員：・緊急輸送道路の整備状況について、国、県、市と管理者が分かれており、管理者区分で道路がつながっていない事例もある。各緊急輸送道路の管理者との連携強化をお願いしたい。

事務局：・津島市の緊急輸送道路はほとんど県道であるが、市が整備に取り組まないという事ではなく、県への人材の派遣等に関わっていくことが考えられる。一部、市道の緊急輸送道路もあるため、管理者区分によらず緊急輸送道路がつながっているか、地域防災計画の緊急輸送道路網を確認する。

委員：・緊急輸送道路は管理者区分によらず、行き止まりや途切れている事例は無いため、安心していただきたい。一方、地域防災計画に記載されている病院等の主要施設へのアクセスが途切れている事例もあり問題となっているため、県が市と協力し対応していく。

委員：・計画期間は2040年までの20年間だが、評価指標の目標も2040年までの値なのか。防災の目標値はさらに短期で目標値を設定したほうが良いのではないか。

委員：・防災の目標は防災部局と調整しながら短期での目標も設定するとよい。

事務局：・指標については、短期目標として、5年毎に評価・見直しを対象であると考えているため、防災関係も目標値については、上位計画等と整合しながら随時見直し等を行っていく。

委員：・防災の指標「災害に強いまちの形成に満足、やや満足している市民の割合」について、津島市外の防災まちづくりの状況や河川整備等の進捗を教えられてない中、アンケートで満足度を回答できるものなのか。

事務局：・広域避難が前提となる本市において、満足度を図るためには本市の状況だけでは回答が難しい場合もある。目標値を設定した理由は、地区防災計画を策定していく中で、他地域の状況やハザードをお伝えしながら、結果的に満足度が向上していくことを考えている。この指標のみ達成するという指標ではない。

- 委員 : ・市民満足度を上げるために、他市等の広域での取組や木曾川の整備状況等の情報提供をするとよい。
- 事務局 : ・市の取組として LINE での情報発信を強化して満足度を向上していくことを考えている。
- 委員 : ・空き地、空き家の活用による人口集積の維持を目指すのであれば、評価指標は非耐震住宅の割合ではなく、空き地、空き家の減少にしたほうが良いのではないかと。
- 事務局 : ・空き地、空き家については、指標「都市機能誘導区域内の低未利用地率の減少」で評価していく。また本市には古い町家もあり、このような建築物を耐震化して活用することを検討しているため、指標は非耐震住宅の割合の減少と設定している。
- 委員 : ・指標「都市機能の徒歩圏人口カバー率上昇」は市全域で算出した値か。その場合、居住誘導区域に人口集約していく考え方と食い違わないか。防災の指標は、「災害に対する家庭内の備えが出来ている市民の割合」に加えて、「避難行動計画を作っている市民の割合」も考えられる。効果を測る指標は具体的な数値があった方がよい。
- 事務局 : ・徒歩圏人口カバー率は市全域で算出している。立地適正化計画では居住誘導区域への誘導を目指している一方、都市計画マスタープランで市街化調整区域での住宅地形成の位置づけをしているため、居住誘導区域での都市機能の充実を市全域へ波及させるという意味で、市全域で都市機能の徒歩圏人口カバー率の上昇を目指す。地区防災計画策定の中で避難行動計画を具体的に検討していく。目標値は具体的な年次や数値の記載を検討する。
- 委員 : ・市民アンケートは定点観測の意味もあるため質問を変更することが難しいが、新規に短期スパンで行う防災アンケートの実施を危機管理課に提案してはどうか。
- 事務局 : ・危機管理課と調整しながら地区防災計画策定の中で地区ごとのアンケート実施等を検討していきたい。
- 委員 : ・アンケートには防災意識啓蒙の意味もあるため、戦略的に実施するとよい。
- 委員 : ・評価指標は「災害に強いまちの形成に満足、やや満足している市民の割合」ではなく、「地域の防災活動に参加している人の割合」の方が良いのではないかと。近年の災害が頻発化、激甚化している状況の中では、防災まちづくりが進んでいるにもかかわらず満足度が下がることが懸念される。
- 事務局 : ・いただいた内容については危機管理課と調整し検討する。
- 委員 : ・具体的な目標数値を設定しやすいため、防災活動への参加割合を指標にすることも考えられる。また、家庭内での避難行動計画の策定率 100%等の指標も考えられる。防災については満足度を指標とする理由付けがあるとよい。
- 委員 : ・本来であれば、交通の指標はコミュニティバスの利用割合だけではなく、コンパクト+ネットワークを実現するための基幹となる鉄道、幹線バスも含めた指標にする方がよいが、定点観測がしやすいコミバスの利用割合にしたという事だと思う。コミュニティバス以外の手段も含められるのであれば、その方がよい。

(3) 津島市立地適正化計画（素案）について

委員：・計画の進め方について、都市機能誘導区域のエリアマネジメントの内容とつながりが見えにくいため、前半に記載するとよい。また北の玄関のイメージ図には他の暮らしのおすすめエリアと合わせ、植栽や田の着色があるとよい。

事務局：・イメージ図を修正する。

委員：・加えて、計画の進め方はエリアマネジメント等、具体的な記載ができるとよい。

委員：・防災指針の図面で河川名の記載がなく、分かりにくくなっているため追記するとよい。

事務局：・河川名を追記する。

以上